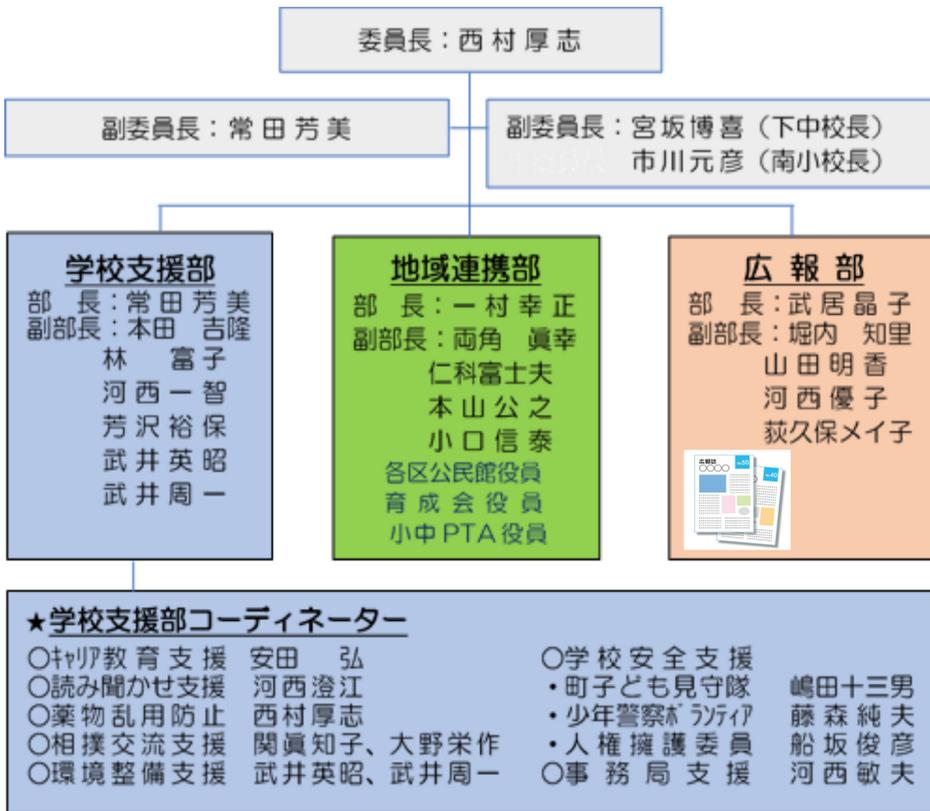




令和元年なぎがまCS運営委員組織図



なぎがまCS 5周年

「なぎがまコミュニティスクール」が発足し5年目を迎えました。地域で子どもたちを支え、南小・下中を盛り上げる活動が展開されています。5年目を迎えた今年も、学校、地域、保護者が連携して、これからの地域の担い手である小中学生たちを支援していくことを第一に考え、運営委員会一同、活動に邁進してまいります。

なお、なぎがまCS発足5周年記念として今回は特大号として発行させていただきます。これからも「なぎがまCSだより」を通じて、地域の皆様に活動の様子や大切な情報を発信し続けていきたいと思っておりますので、皆様の益々のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



下諏訪中学校
校長 宮坂博喜

下諏訪中にお世話になって、私が「すごいな」と感激していることの一つに、「なぎがまCS」があります。西村委員長を中心に、組織や運営を地域の皆様の手で主体的に展開していただいていることに感激。地域連携合同会議や下中を語る会などの際には、子どもたちの話に本気になって耳を傾け、共に考え、語ってくださるお姿に

感激。また、朝の読み聞かせでは、子どもたちの表情を見ながら愛をこめて朗読してくださるお姿に感激。なぎがまCSの皆様の地域の子どもたちを思うことした「本気の情熱」が、確実に子どもたちの心に届き、地域の一員としての思いを育んでくださっていることを感じ、感激・感謝です。今後も様々な場面でのお力をお貸しください！



下諏訪南小学校
校長 市川元彦

昨年、本校に赴任した際、「なんと心強い組織だろう！」と感激したことを思い出します。そして最近、コーディネーターの方から「小学生がよく挨拶をしてくれるようになった」とお褒めの言葉をいただきました。「CSの活動があるからこそその成果」と感謝しています。地域の方から温かな声をかけていただき、密接に関わっていただくことで、子どもたちの姿も変わってきたのだと思います。学校と地域が密接に

なぎがまCSに喜んでいる

関わることで、子どもの成長は大きく変わっていきます。今後とも、「なんでも大好き、みんな大好き、ナイストライ！」の南っ子の、伸び伸びとした育ちのために、皆様の力をお貸しいただきたいと願っています。



交流相撲部屋荒汐



6月の少し肌寒い早朝、南小校庭の土俵では荒汐部屋力士たちが体中土まみれになりながら、朝稽古に励んでいました。今年7月の名古屋場所に向けて合宿ということで下諏訪町に滞在することとなりました。恒例の朝稽古では登校する子どもたち、地域の皆さん、相撲ファンの方々など大勢の皆さんが真剣に稽古に励む力士の姿に感銘をうけました。滞在期間中の朝稽古には逸ノ城関の姿もありました。昨年同様、力士たちは平和館に宿泊し、有志の皆さんが用意した自転車に乗り、稽古場を歩き来たり、下諏訪町内を移動したりしていました。



中学生とフルーツバスケットをする 若降元、廣瀬 若元春、寛龍

くださったりしました。体育館中に響けたい油の香りが漂いました。各クラスの力士たちとの交流では、ダンスをしたり、フルーツバスケットをしたり、腕相撲をしたりと各クラス様々なやり方で交流を楽しんでいました。小中学校の交流会では朝稽古で見せる厳しい表情とはまた違い、笑顔いっぱい子どもたちと接してくださいました。

の量が足りるのか心配している優しい子どもたちがとても印象的でした。午後からは、学校へ移動し、一年生生徒への講話がありました。蒼国来関や若降元、廣瀬、若元春、寛龍の話を聞きました。若降元、廣瀬、若元春、寛龍の話を聞くことができて、とても貴重な機会でした。僕はわりと小柄なので、どうしたらあんなに大きな体になれるのか不思議でした。やっぱりたくさんご飯を食べることが大切なのかなと、僕もびっくり。食事を心掛けたいです。そして体だけではなく、心身共に強い人間になれるように日々努力していきたいと思っています。荒汐部屋力士の皆さん、本当にありがとうございました。



下諏訪中学校 一年 石黒 湧太

この合宿期間中、小中学校で恒例の相撲交流が開催されました。小学校では全校児童が力士たちと組をしました。取組の始めに力士から子どもたちに『相撲は礼に始まり礼に終わります。始めと終わりの挨拶はきちんとしましょう。』というお話がありました。子どもたちはその教えをしっかり守りながら取組をしていました。力士一人に対し、5、6人の子もたちで立ち向かっていきますが、びくともしない力士に子どもたちの表情は徐々に真剣さを増していききました。最後は少し大柄な先生が力士と真剣勝負の取組をしました。子どもたちの大声援を受けて頑張った先生でしたが、軽く投げ飛ばされてしまいました。その後は各クラスに分かれて給食と一緒に食べました。



寛龍と先生の真剣勝負！

荒汐部屋力士の皆さん、本当に貴重な時間をありがとうございました。また来年もぜひ下諏訪町にお越しください。お待ちしております。



特集

もっと知りたい荒汐部屋のこと

合宿中の荒汐部屋力士が寝泊まりする平和館にお邪魔して、ちゃんこ鍋をごちそうになりながら、おかみさんや力士の皆さんに色々なお話を伺いました。

★ 場所前に自分の部屋ではない場所で合宿するのは珍しいことなのですか。



【おかみさん】場所前の巡業(合宿)はこの部屋でもやっています。後援会長の奥様の故郷であるこの下諏訪町には合宿に必要な3つの条件(土俵、宿舎、地域の協力)がそろっているのだからです。またきついで、下諏訪町のいいところは、下諏訪町のいいところです。できればずっと下諏訪町で合宿をやりたいです。

★ ちゃんこ鍋の味付けの基本は塩ですか。



【おかみさん】基本は塩、味噌、醤油ですが、イベントの時はいつも塩炊きでお肉は鶏肉なんです。

★ カシは鶏肉しか食べないと聞きましたか。



【おかみさん】初日の前はゲン担ぎで手をつかないように「四つ足は食べない」ということです。でも他の日は食べますよ。前日の日だけ縁起を担いで食べないんです(笑)。本日は魚をもっと食べさせたいですが、お肉の方が安心です。カシたちはお小遣いで回転ずしに行き、魚食べてますから。

★ 回転ずしでは一人何皿食べるんですか。

【カシ】だいたい70皿くらいですよ！

★ 中学生に伝えたいことってありますか。

【蒼国来関】私は中学時代は遊んでいただけ(笑)。目の前のことを精一杯やっていたらいいと思います。私もそういう子だった気がします。今の中学生はこの高校に行き、あの大学に行き、そしていい職業について考える必要があるんですけど、まだそんなことを考える必要はないと思うんです。目の前のことを精一杯やればいいと思うんです。

★ メンタルを強くするために何か努力していることはありますか。

【蒼国来関】メンタル面がいつも大変です。体が元気でも、調子が悪くても相撲を取らないといけない。やっぱり最後はメンタルで戦うんです。それはいろんな稽古をしたりすることでメンタルが強くなっていくんです。毎日しっかりとやっているからこそ、調子が悪くても、痛くても何とか動けるんじゃないかと思えます。何もやっていなくて、いきなり土俵に出てもやられちゃいます。毎日やるべきことをしっかりとやっていけば自信がついてきます。

★ どうして荒汐部屋に入門したのですか。

【飛驒野さん】インターネットで調べました。入って8年目になりますが、入ってよかったです。どこの部屋にもいっぱい新弟子が入ってきますが、続けられることが一番大事です。から。

★ 辛かったことはありますか。

【飛驒野さん】やっぱり稽古が辛いです。見るのとやるのでは大違いです。中でもぶつかり稽古が辛いです。相手の胸に向かって押し進む稽古ですが、土俵の外まで押し出すという稽古なので、押し出さないとずっと土俵の中なんです。本当に疲れるんです。

★ 最後に一番楽しいことは何ですか。

【蒼国来関】マッサージを受けているときだなあ。これほんとです(笑)。





恒例の四王夏まつりが盛大に開催されました。

四王では6、7年前から祭りの中で中学生に司会や出店販売などの役割を担ってもらっています。そうすることにより、子どもたちが自ら率先して祭りに携わってくれるようになりました。

そんな頑張るお兄さん、お姉さんの姿に憧れ、「いいつかはお祭りのお手伝いをしたいな。」と思って見ている幼い子どもたちがいます。四王は夏の祭りで子どもたちの間で素敵な伝統を作り上げてきました。

またお祭り前日から四王町内では子どもの声で夏祭

夏祭りで活躍する子どもたち



は緊張した様子で、たどたどしくアナウンスをはじめますが、幾つか角を曲がる頃には、アナウンスの声に自信が感じられます。そして、車を降りるときには、「みんなが「楽しかった!」「またやりたい!」と晴れ晴れとした表情をみせてくれました。

地域で経験したこと、そして楽しい思い出が素敵な記憶となり、未来にその想いを繋いでいって欲しいと四王では願っています。

り開催を知らせるアナウンスが聞こえてきます。小学校高学年の子どもたちが率先して広報活動に乗り込み、担当しています。

広報車に乗り込む前は緊張した様子で、たどたどしくアナウンスをはじめますが、幾つか角を曲がる頃には、アナウンスの声に自信が感じられます。そして、車を降りるときには、「みんなが「楽しかった!」「またやりたい!」と晴れ晴れとした表情をみせてくれました。

『皆さまに感謝』



なぎがまコミュニケーションニテイスクール
運営委員長 西村 厚志

なぎがまコミュニケーションニテイスクールが発足して今年で五年目になります。

先日、南信教育事務所所の主催で開催されたフォーラムに出席しました。当日は前小沢貞義教育長（現在は信州型CS県アドバイザー）より「地域ぐるみで子育てを充実させていくために」と題して講演がありました。地域と共に子どもたちを育てる必要性を熱く語って下さいました。その中で、下諏訪町のコミュニケーションニテイスクール（ノース・なぎがま）の成り立ちを紹介して頂きました。発足当時の頃を懐かしく思い出させて頂きました。

当初は何からすれば良いのか、何をしたら良いのかと思い悩み、先進地を視察させて頂

いたりの苦勞を思い出しました。結局たどり着いた思いは「子どもたちのために出来ることをしよう。」でした。そして、地域の多くの皆様にお声をかけ、コーディネートとしてご参加ご協力を賜ることが出来ました。

フォーラムでは全県下の公立小・中・義務教育学校、五四四校の全てでコミュニケーションニテイスクールが設置されているとお聞きしました。また、それぞれ成果を上げています事も紹介され、改めてその必要性、その実践が認められつつあると実感も致しました。

その後、分科会で代表校から活動報告の発表とグループディスカッションで他地域の関係者とお話しさせて頂き、活発な活動をされている事も知る事が出来ました。特に中学生が積



小中学生、地域の皆さん、学校関係者で開催された地域連携会議の様子（2019年5月）

極的に自主性を持って参画している様子が伺え嬉しく思いました。

まだまだ発展途上ではありますが、基本的な子どもたちへの思いは変わらず持ち続け、社会の変化に敏感に対応しながら、コミュニケーションニテイスクールが充実することを心より願います。

地域の皆様には、少しでも子どもたちに目を向けて頂き、更なるご理解、ご協力を賜りますれば幸いに存じます。

編集後記

この度なぎがまCS発足5周年を記念しまして『特大号』を発行させて頂きました。

この5年間、子どもたちに対する地域の皆様や支援団体の皆様のご取り組みを取材させて頂いた、なぎがまCSの活動は地域の皆様のご理解とご協力があったからこそ改めて感謝申し上げます。

これからも様々な活動をご紹介していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

なぎがまコミュニケーションニテイスクール
広報部一同

なぎがま掲示板

この5年間に発行してまいりました「なぎがまCSだより」バックナンバーが小学校・中学校のホームページからご覧いただけます。

下記のURLにアクセスしてください。

下諏訪中学校 www.suwa-ngn.ed.jp
下諏訪南小学校 www.shimosuwaminami-e.suwa-ngn.ed.jp